

国土交通大臣賞
(絵画・小学生の部)



三重県 いなべ市立西藤原小学校 6年
馬場真子

国土交通大臣賞
(絵画・中学生の部)



福岡県 方城町立方城中学校 2年
土肥志文

国土交通大臣賞
(ポスター・小学生の部)



宮城県 仙台市立住吉台小学校 6年
金森良太

国土交通大臣賞
(ポスター・中学生の部)



高知県 葉山村立葉山中学校 3年
雨宮 しづ乃

※「うわ〜 おらんくが つえるう〜」とは、土佐の方言で「うわ〜 私の家が つぶれる」という意味です。

常願寺川の洪水と砂防

富山県立藤ノ木小学校

四年三組

岩本

万由子

今年の夏は、七月には福井県が新がた県で八月には高知県でも大雨のせいで、大変なひがいがおきました。高知県のニュースを見ていたら、わたしと同じ小学生の子どもたちが川の水が急にふえたせいでさけんな目にあって、ヘリコプターで助けられていました。わたしは、今まで、こんなニュースは、かわいそうだなあ。と思って見ているだけでしたが、でも、今年は、どうしてひがいがおきたんだろう。とか、どんな場所だ、たんだろう。と考えるながら、ニュースを見たり新聞を読んだりしています。それは、一学期から校下を流れる常願寺川や洪水のことを調べたりしてきましたからです。

はじめのころは、ていぼうがいくつもあることや大転石がすごく大きいことが不思議でした。でも、いろいろと調べていくうちに、

昔の人たちが何度も家を流されたり、田んぼがだめになったりして、たくさんの方が死んでしまったことや、そんなひがいにあわたいための協力をしてきた人がいたことが分かりました。

わたしは、六月に常願寺川のことを調べるために、川ぞいを上流まで行ってみたり、本で調べたりして、自分のテーマを「常願寺川の洪水」にすることに決めました。それから七月と八月に立山カルデラ砂防博物館に行っ

てみました。すると、今まできれいな山だと思っっていた立山に「立山カルデラ」という大きななべそのような所があったり、安政の大じしんで大とんび山と小とんび山がくずれてしまっただめに、常願寺川の川ぞいに土砂がいっぱいたまっってしまった。川があさくなっ、天じょう川になっ、洪水がおきやすくなったりしたことが分かっ、てきました。

わたしは大転石を見た時に、こんな大きい石が流されるくらいだから、ものすごいき

おいだ。たのたろうなあと思っ、調べてみ
 ました。すると、わたしが住んでいる藤ノ木
 のあたりはひじいひがいにあつたせいで、村
 ごと立山町に引こしたりしていたことや、
 今でも大日橋のあたりの川そこが一番高くて
 大じょう川になつていることが分かりました
 それに、藤ノ木から少し上流の西番のあたり
 にたくさんあるいくつもの大転石をさがして
 見つけることができました。それは、立山カ
 ルデラ砂防博物館で、学芸員の先生から教え

てもらつたからです。博物館では、常願寺川
 や立山カルデラのことをえい画で見たり、安
 政の大地しんをアニメで見たりできたので、
 今までもずかしいことばで分からなかつたよ
 うなところも分かるようになりました。

持に「砂防ダム」や「砂防工事」の大切さ
 がよく分かりました。白岩砂防ダムが日本一
 落差のあることや本宮砂防ダムが日本一た
 さんの土砂をためていることなど、みんな常
 願寺川があれば川だったのをなおすために、

がんば、た証こだと思ひます。今まで山の方
 へドライブに行くに、川がだんに滝みたいにな
 っていているところを見て、きれいだなと思
 っていたけど、これも砂防のためだ。たのだ
 と分ってびくりました。昔テ・レーケと
 いうオランダ人が常願寺川をまっすぐにする
 工事をしたあともずくと砂防工事を続けてき
 たおかげで、昭和四十四年の洪水のひがりが
 少なかつたということも分かつて安心しまし
 た。わたしは、土石流実験も3Dメガネをか
 けての土石流体験も地しん体験もしてみたら
 しんど七がすごくゆれて少しもたえられなく
 て、こんな事がいっぺんにおきたらなんてお
 そろしい事だろうとぞっと思いました。わたし
 は、勉強をした後の博物館の帰り道に、山の
 がけにエッソトがはってあったり、コンクリ
 ートでかためているのを見て、今でも砂防工事
 がされている事が分かつて、少し心配になり
 ました。わたしたちを守る砂防の仕事をし
 ている人たちに、しっかり感じたいです。

京都府

相谷川砂防堰堤を見学して

京都市右京区梅津上田町一十九

伴 麻衣子 十五才 女

京都教育大学附属京都中学校 三年

116414636

今年の日本は、季節はずれの台風のため、日本各地で多くの被害を受けました。

七月上旬に発生した、新潟・福井豪雨では、十数名の死者・行方不明者が出ましたし、八月に入ってからのも、徳島県にも、大き

な被害が発生しました。私の住んでいる京都

には、今回は被害が発生しませんでしたが、ニュース報道などで見るかぎりでは、突然の

ように襲って来る災害に対しては、一般の人は無力のよう思えて、恐怖を感じました。

そこで、私の住んでいる京都では、どのような防

災対策かとらわれているのかを調べてみる

事にしました。

まず実際に、どのような砂防施設があるのかを、京都府土木建築部砂防課のホームページ

川で調べてみると、木津川の上流に、不動川砂防公園という所があり、その支川の相谷川に、明治時代に造られた堰堤が残っていることが分かった。なので、見学に行ってみました。

不動川砂防公園に着くまでの道は、大変きれいに整備されているのですが、道のすぐ近くまで山が迫っている所もあり、昔は、もの凄いい山奥だったのかなとも思いました。

砂防公園に着いてすぐ目に飛び込んできたのは、大きな壁のような施設と湖です。最初は、なぜこんな施設があるのかわからなかったのですが、公園内あちろちろに立ててある説明板を読むと、砂防に関する基本的な事が分かる仕組みになっていました。

私が理解した日砂防は次の三つです。

一、山の土砂が流れ出さないようにするために、山腹に木を植えたり、石垣を作ったりする。

二、大雨で流れ出した大量の土砂を、砂防

ダムを作ると一時的に堆積させる。
三、川底や川岸が侵食されないように、護岸工事をする。

この砂防公園のように、目の前に本物の施設があるとは、大変理解しやすかと思えました。その上で、最初の大きな壁や湖をもう一度見学すると、その役割がよく分かりました。

また、このような山間部の施設があるおかげで、平野部や下流域に住む人々の生活が守られていくのだと、初めて気がつきました。

土砂災害に対する対策として、目に見える形の砂防ダムというのは理解しやすかったのですが、山に木を植えたり、石垣を作ったりという、土砂を流れ出にくくする事が、砂防になるといえるのは、全く考えられませんでした。

それにしても、これだけの施設を、この山奥に作り出す事は、どれほど大変だったかと思うと、想像を絶するものがあります。現在の砂防公園は、昭和五十年代後半から整備された

たものですか、それで二十年前、昔のもの
で、現在と比較すると、道路や機械も、不
分たつたのではないかと思えます。このよう
な大変な努力の結晶として、こんな砂防施設
があるのだと思うと、日本人とも言えない気持
ちになりました。

防災・災害という言葉を聞いて、洪水の事
を想像していただいたのですか、洪水を起さない
ためにも、川に大量の土砂が入るのを防ぐ事
が重要で、洪水のように、事前に予想がつか
ない

災害よりも、突然襲ってくる土砂が、
土石流の方が恐ろしいのかとも思いました。
和の家も、有栖川という川のすべりばに建
てていますか、普段の有栖川は、水深が二十
センチメートルくらいしかありません。ここ
で、大雨が降ると、みるみる水かさが増え
て、ものすごい勢いで流水になります。今回
の砂防施設の見学をするまでは、護岸工事の
事など、全く気がつかないで、たのびすか、改
め有栖川を見ると、その意味が理解でき

ようになりました。

私のように、砂防壁という事を全く知らない人や、関心がない人でも、この施設を見るのと、その大切さがよく分かると思います。日本は、山と海の距離が近く、そのためには川の流水が急である事は言うまでもありません。また、梅雨の長雨や台風の高雨による被害も毎年、日本のどこかで発生しています。一見自分たちに関係のないところで行われてい子防壁事業ですが、自分達の生活を守っていただく事に、感謝したいと思います。